

## 安全データシート(SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

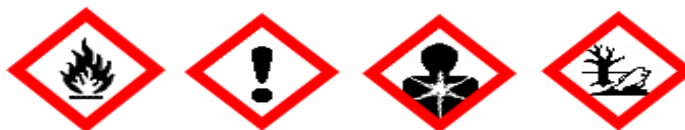
製品名	KBD UVクリーン・エコ 改良
会社名	株式会社 光文堂
住所	愛知県名古屋市中区金山 2-15-18
電話番号	052-331-4111
FAX番号	052-331-4691
推奨用途及び使用上の制限	印刷インキの洗浄

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物理化学的危険性

爆発物	分類できない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分4
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	分類できない
自然発火性液体	分類できない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類できない
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過氧化物	分類できない
金属腐食性化学品	分類できない
鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	分類できない
急性毒性－経口	分類できない
急性毒性－経皮	分類できない
急性毒性－吸入(ガス)	区分に該当しない
急性毒性－吸入(蒸気)	分類できない
急性毒性－吸入(粉じん、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
感作性－呼吸器	分類できない
感作性－皮膚	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
生殖毒性・授乳影響	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	分類できない
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)	区分3
オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素  
絵表示注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
[H227] 可燃性液体  
[H319] 強い眼刺激  
[H412] 長期継続的影響によって水生生物に有害

## 注意書き

### 【安全対策】

[P210] 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。

### 【応急措置】

[P370+P378] 火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。

### 【保管】

[P403] 換気の良い場所で保管すること。

### 【廃棄】

無し

物理的、化学的危険性  
分類名称（日本方式）

第4類引火性液体、第二石油類、非水溶性液体  
引火性液体（労働安全衛生法 施行令 危険物 引火性のもの）

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物

化学名	化学式	CAS番号	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	含有量
グリコールエーテル系	非公開	非公開	非公開	90 - 100%
石油系炭化水素 (ミネラルスピリット)	特定 できない	64742- 81-0	(9)-1702	10% 以下

## 4. 応急措置

吸入した場合

医師に連絡すること。

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚を流水、シャワーで洗うこと。医師に連絡すること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて

容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は医師の診察、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状

データなし。

最も重要な兆候及び症状

データなし。

応急措置をする者の保護

データなし。

医師に対する特別注意事項

ばく露の程度によっては、定期健診が必要である。

## 5. 火災時の措置

消火剤

小火災：二酸化炭素、粉末消火剤

使ってはならない消火剤

棒状放水

特有の危険有害性

加熱により容器が爆発するおそれがある。

極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。

消火後再び発火するおそれがある。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

引火性の高い液体および蒸気

加熱により容器が爆発するおそれがある。

屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

引火点が極めて低い：消火候化がない恐れがある場合散水する。

移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外の立入りを禁止する。  
作業者は適切な保護具(『8.ばく露防止及び保護措置』の項を参照)着  
を用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。漏洩しても火災  
が発生していない場合、密閉性の高い不浸透性保護衣を着用する  
風上に留まる。  
低地から離れる。  
密閉された場所に立入る前に換気する。  
環境中に放出してはならない。  
河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。  
少量の場合、乾燥土、砂や不活性吸収物質で吸収し、あるいは  
覆って密閉できる空容器に回収する。  
少量の場合吸収したものを集めるとき清潔な帯電防止工具を用る  
大量の場合盛土で囲って流出を防止し安全な場所に導いて回収。  
大量の場合、散水は蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場  
所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。  
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。  
蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。  
危険でなければ漏れを止める。  
全ての発火源を速やかに取除く(近傍で喫煙、火花や火炎禁止)。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

環境に対する注意事項

回収・中和

封じ込め及び浄化方法・機材  
二次災害の防止策

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を  
着用する。  
『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う  
使用前に使用説明書を入手すること。  
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱い  
をしてはならない。  
眼に入れないこと。  
接触、吸収又は飲み込まないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
『10. 安定性及び反応性』を参照。

局所排気・全体換気  
安全取扱い注意事項

接触回避

保管

技術的対策

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作  
ること。  
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量  
な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。  
保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とするこ  
と。  
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な  
傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。  
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、  
照明及び換気の設備を設ける。  
『10. 安定性及び反応性』を参照。  
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。ー禁煙。  
酸化剤から離して保管する。  
容器は直射日光や火気を避けること。  
容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。  
施錠して保管すること。  
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。  
消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

混触危険物質  
保管条件

容器包装材料

## 8. ばく露防止及び保護措置

化学名	管理濃度	許容濃度 日本産業衛生 学会	許容濃度 ACGIH (TLV-TWA)
グリコールエーテル系	未設定	未設定	未設定
石油系炭化水素 (ミネラルスピリット)	未設定	未設定	未設定

### 設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。  
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
 空気中の濃度をばく露限度以下に保つ為排気用の換気を行うこと  
 高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。

### 保護具

呼吸用保護具

手の保護具

眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

### 衛生対策

防毒マスク(有機ガス用)、送気マスク、空気呼吸器  
 保護手袋(耐油性)  
 保護眼鏡、ゴーグル  
 保護長靴(耐油性)、防災面、保護服、保護前掛  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 取扱い後はよく手を洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	形状	液体
	色	無色透明
	臭い	特徴臭
	pH	データなし
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		150 - 180°C
引火点		67°C以上
自然発火温度		データなし
燃焼性(固体、ガス)		該当しない
爆発範囲		データなし
蒸気圧		データなし
蒸気密度		>1
蒸発速度(酢酸ブチル=1)		データなし
比重(密度)		0.920
溶解度		水に不溶
オクタノール・水分配係数		データなし
分解温度		データなし
粘度		データなし
粉じん爆発下限濃度		データなし
最小発火エネルギー		データなし
体積抵抗率(導電率)		データなし

## 10. 安定性及び反応性

### 安定性

危険有害反応可能性

避けるべき条件

混触危険物質

危険有害な分解生成物

法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。

データなし

加熱、火源

強酸化剤、強還元性物質

データなし

## 11. 有害性情報

化学名	グリコールエーテル系	石油系混合溶剤 (ミネラルスピリット)
急性毒性(経口)	区分に該当しない	分類できない
急性毒性(経皮)	区分に該当しない	分類できない
急性毒性 (吸入:ガス)	区分に該当しない	区分に該当しない
急性毒性 (吸入:蒸気)	分類できない	分類できない
急性毒性 (吸入:粉じん)	分類できない	分類できない
急性毒性 (吸入:ミスト)	分類できない	分類できない
皮膚腐食性/ 刺激性	区分に該当しない	区分2
眼に対する重篤な損 傷性/眼刺激性	区分2A	分類できない
呼吸器感作性	分類できない	分類できない
皮膚感作性	区分に該当しない	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない	分類できない
発がん性	分類できない	分類できない
生殖毒性	区分に該当しない	分類できない
特定標的臓器・ 全身毒性 (単回ばく露)	分類できない	区分2 (中枢神経系)
特定標的臓器・ 全身毒性 (反復ばく露)	分類できない	分類できない
誤えん有害性	分類できない	区分1

## 12. 環境影響情報

化学名	グリコールエーテル類	石油系混合溶剤 (ミネラルスピリット)
水性環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない	分類できない
水性環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない	分類できない

## 13. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

### 汚染容器及び包装

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報 航空規制情報	IMOの規定に従う。 ICAO・IATAの規定に従う。
国内規制	陸上規制情報 海上規制情報 航空規制情報	消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。
特別安全対策		移送時にイエローカードの保持が必要。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。 重量物を上積みしない。
国連番号		1210
緊急時応急措置指針番号		129

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号） 名称等を通知すべき危険物及び有害物 （法第57条の2、施行令第18条の2別表第9） 鉱油（政令番号：第168号） 有害液体物質（Z類物質） （施行令別表第1）
海洋汚染防止法	有害液体物質（Z類物質） （施行令別表第1）
消防法	第4類引火性液体、第2石油類、危険等級Ⅲ、非水溶性液体 （法第2条第7項危険物別表第1）

## 16. その他の情報

参考文献	GHS混合物分類判定システム 安全衛生情報センター(SDS) 環境省 化学物質情報検索支援システム
記載内容の取扱い	記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策の実施にご配慮をお願い致します。 また、記載内容は情報提供であってその内容を保証するものではありませんので、重要な決定をされる場合は出典等をよく検討されるか試験によって確かめられることをお勧めします。